

博慈会 老研一口伝言

断片的な正義と社会的未病

病気は突然やって来るように見えます。しかし実際には、その前に小さな兆候があります。血圧が少し上がる。体重が少し増える。何となく疲れやすい。そう、未病とは、そのような病気の前触れを意味する言葉なのです。

さて最近、親子げんかが思わぬ大事件へ発展したという報道があったのを記憶されている方は多いかと思います。娘はAIに相談し、AIは安全を優先する助言を行った。児童相談所は子どもの保護を考え、警察は法に基づいて対応した。それぞれが自らの役割と正義に従った結果で起こった事件でした。

●断片的な正義のズレほどやっかいなモノはない

ところが興味深いのは、誰か一人が悪意を持って行動したわけではないことです。むしろ全員が善意で動いていたのです。

それでも結果は、多くの人が予想しなかった最悪の方向へ進んだことです。

社会にはこうしたことが少なくありません。行政には行政の正義があり、医療には医療の正義があります。教育には教育の正義があり、そして市民には市民の正義があります。

本来なら互いに補い合うべき正義なのですがしかし断片的な正義が少しずつズレ始めると、やがて大きな摩擦となります。病気と言えば、軽い炎症が全身へ広がるようなも

のです。私はこれを「社会の未病」と呼びたい。

家庭には家庭の未病があり、社会にも未病があり、そして国家にも国家の未病があって当然です。

怒りが深まる前に話し合う。誤解が固まる前に説明する。対立が決定的になる前に歩み寄る。「未病の存在」を知っておくことは単なる健康・医療面だけでなく、人間関係や社会のあり方を考えるにおいて知っていて良い知恵なのではないでしょうか。

● AIに未病の心を期待できるか？

AIはこれからますます賢くなるでしょう。家庭の異変も、心の変化も、健康状態も見つけ出すようになるかもしれない。しかし、ずれた正義を調整し、相手を理解し、和解へ導く力は依然として人間の役割なのです。病気を防ぐには未病を治すことが大切だと言いつけてきました。同じように、社会を守るには「社会の未病」を見つける目も必要なのではないでしょうか。

今回の出来事は、AI時代の新しい課題を私たちに示しました。大事件は突然生まれるのではない。小さな正義のすれ違い(未病)が積み重なった先に現れるのではないのでしょうか。(老人病研究所 所長 福生吉裕)

断片的な正義がズレると大きな事件になる
(小さな未病に気づき、対話でつなごう)



●著者 福生 吉裕 (ふくお よしひろ)

一般財団法人 博慈会 老人病研究所所長

一般財団法人博慈会 老人病研究所